

北海道の歴史 《ところ遺跡の館展示案内》

日本列島の他の地域とは異なる文化が展開してきた北海道では、独自の時代区分が用いられています。「ところ遺跡の館」ではこれら各時代・文化の資料を通して大昔の北海道の歴史を紹介しています。

旧石器時代 ~約14000年前

この時代は現在より寒い氷河期でした。市内では約25000年前頃から遺跡が残されています。
石刃(岐阜第二遺跡)▶



縄文時代 約14000年前~約2400年前

縄目の模様で代表される「縄文土器」が使われた時代です。気候が暖かくなり、常呂では5000~4000年前頃から多くの人々が暮らすようになって、多数の遺跡が残されました。



◀縄文土器(常呂川河口遺跡)

続縄文時代 紀元前4世紀~紀元6世紀頃

本州が弥生時代に入っても北海道には農耕が広まらず、狩猟・採集の文化が続いていました。縄文時代と同様の土器や石器とともに、他地域から入手した鉄も使われはじめました。



副葬品の石偶とコハク製首飾り(常呂川河口遺跡)▶▶

擦文時代 7~13世紀頃

本州からの影響で文化が変化した時代で、縄文のある土器にかわって表面を木のへうで擦って仕上げた「擦文土器」が使われました。石器はほとんど使われず、鉄の道具にとってかわられます。



◀擦文土器の高坏(ところ遺跡の森)

オホーツク文化期 5~12世紀頃

北方からオホーツク海沿岸にわたってきた異民族の文化で、常呂地域には7~9世紀頃に現れました。海を生活の中心とした人々で、独自の文化を残しています。



クマの彫刻 ▶
オホーツク土器
(常呂川河口遺跡)

アイヌ文化期 14~19世紀頃

交易の発達により鉄鍋が普及し、土器がほとんど使われなくなりました。竪穴住居も姿を消し、生活が大きく変化しました。チャシ(砦)や儀式の場所の跡などが遺跡として見つかっています。



▲銚頭 ガラス玉▶
(ライトコロ川口遺跡)

ご利用案内

■ ところ遺跡の館

開館時間: 午前9時~午後5時

休館日: 月曜日・祝日の翌日・年末年始(12月29日~1月5日)

観覧料:

	一般	高校・大学生	小中学生・70歳以上
個人	280円	160円	無料
団体(10名以上)	240円	130円	無料

※障がい者手帳をお持ちの方、幼稚園や小・中学校の教育活動における引率の方など、観覧料が免除になる場合があります。詳細についてはお問い合わせください。

■ ところ埋蔵文化財センター

開館時間: 午前9時~午後5時

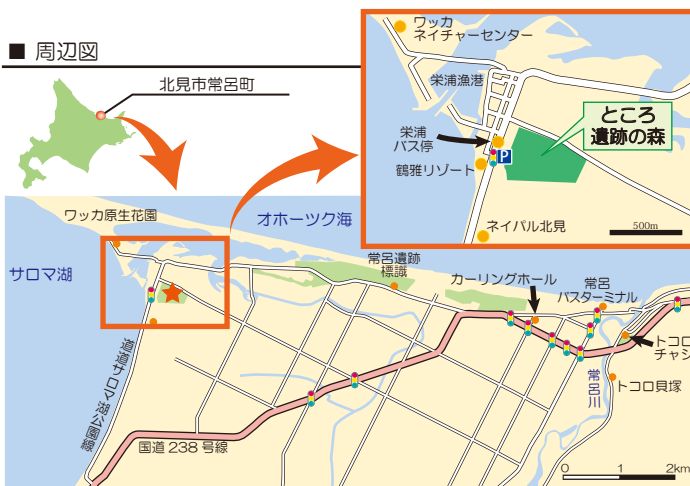
休館日: 月曜日・祝日の翌日・年末年始(12月29日~1月5日)

■ 東京大学常呂資料陳列館

開館時間: 午前9時~午後5時

休館日: 火曜日(祝日は開館)・年末年始(12月26日~1月7日)

■ 周辺図



交通: 北見市営バス「栄浦」バス停、または網走バス「サロマ湖栄浦」バス停下車。
自家用車: JR北見駅より約50km、網走駅より約40km、女満別空港より約45km。

ところ遺跡の森

ところ遺跡の館 〒093-0216 北海道北見市常呂町字栄浦 371

Tel: 0152-54-3393/ Fax: 0152-54-3538

ところ埋蔵文化財センター 〒093-0216 北海道北見市常呂町字栄浦 376

Tel: 0152-54-3167/ Fax: 0152-54-3996

<http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/>



国指定史跡「常呂遺跡」